

症状が治まった時期～卒業

目的

・状態の確認と認識

初診時からの変化を、問診(主観)と検査(客観)で確認する

問診 → 患者自身が変化を言葉にすることで再認識する

→ 初診時の状態と比べる事で患者が気付いていない変化を認識してもらう

→ 関連症状なども確認する

検査 → 症状が治まっても根本改善していないことを実感してもらう

ストレッチのチェック → 見立てでストレッチの抜き打ち検査

・リマインド

初診時に患者が求めた「根本改善」の意志と、そこまでの工程を再確認する

・卒業後の準備

ストレッチプログラム作成 → その時点での通しの順番を組み立てる

カウンセリング → 患者自身が根本原因を理解しているか確認する

→ 新たな問題や目的を提示することで「その先」を魅せる

症状が治まっていない場合

初診時に立てた予定(最初に提示した回数や日数)になっても症状が残って

いる時は、必ず伝えて予定の再設定をする

ここでしっかり伝えていないと、患者が不安になり離脱する → ラポール低下